

## 米国大統領選 7 共和党大会で弾みをつけられなかったロムニー候補

8月28日から30日までフロリダ州タンパで共和党全国党大会が開催された。今回は、党大会の中で最も注目された30日のロムニー大統領候補の指名受諾演説に対する評価とそれを踏まえた最新の選挙戦の情勢分析を報告する。

### 1. ロムニー候補の勝利目指し、党大会で団結し熱意を高めた共和党

8月27日からフロリダ州タンパで開催した共和党全国党大会は、熱帯低気圧「アイザック」の接近により主要日程を3日間に短縮したが、大会の進行に特に大きな影響はなかった。党大会は、28日にミット・ロムニー前マサチューセッツ州知事を大統領候補に、ポール・ライアン下院予算委員長を副大統領候補に指名。29日夜にはライアン副大統領候補、30日夜にはロムニー大統領候補がそれぞれ指名受諾演説を行った。この間に、アン・ロムニー大統領候補夫人、クリスティー・ニュージャージー州知事、ライス前国務長官、ジェフ・ブッシュ元フロリダ州知事、ルビオ上院議員などが登壇。ロムニー・ライアン両候補を含めた誰もが、オバマ大統領が国民を失望させたとして強く非難し、米国の良い方向に導く指導者であるロムニー候補への政権交代を実現しようと呼びかけた。

穏健派のロムニー候補は、保守派は心底では同候補を受け入れていないという見方は依然としてある。だが今回の党大会では、保守派の不満が表面化したり、党内の対立が生じることはなかった。それは、保守派の主張の多くが党大会で採択された綱領に盛り込まれたからであり、ロムニー候補も従来の穏健な主張をほとんど捨てて保守派の主張を受け入れ、副大統領候補に急進保守派のライアン氏を選んだからである。ここまでロムニー候補を含めて党内の穏健派が折れれば、急進的な勢力を含めた保守派は、ロムニー・ライアン両候補を支持することで団結できる。結果的に共和党は、挙党態勢を確立し、大統領選・議会選に向けて党内の熱意を高めて党大会を終えることができた。

### 2. 演説と党大会の評価は「微温的」、人間味アピールは空振りに終わる

#### (1) 党大会の最大の課題は「ロムニー氏の好感度アップ」

もっとも、共和党とロムニー陣営には、今回の党大会に挙党態勢の確立以上に重要な課題があった。それは、ロムニー候補の人間味を有権者に理解してもらい、ロムニー候補が有権者と個人としての関係を結ぶことであった。従来の党大会にはなかった異例の課題にロムニー陣営が取り組まざるを得なくなったのは、党大会直前の各種世論調査においてロムニー候補は支持率ではオバマ大統領を僅差で追いながら好感度では大きな差をつけられたからであった。

ロムニー候補の低い好感度に強い懸念を持ったロムニー陣営と共和党は、党大会をロムニー候補の人柄や人物的魅力を広く有権者に知ってもらう貴重な機会と位置付け、総力を挙げて人間味を有権者にアピールした。アン夫人は夫の誠実さと魅力を熱心に語り、ロムニー候補が属するモルモン教会の関係者らも同候補の良い人柄を強調した。そして最後にはロムニー候補が、党大会の最高潮である指名受諾演説<sup>1</sup>の中でこれまで述べなかった自らを語るという念の入れようになっていた。

#### (2) 有権者に不評という結果を示した党大会後の世論調査

しかし、肝心の有権者の反応は芳しくなかった。9月3日にギャラップ社が発表した世論調査<sup>2</sup>に

<sup>1</sup> Transcript: Mitt Romney's Acceptance Speech

<http://www.npr.org/2012/08/30/160357612/transcript-mitt-romneys-acceptance-speech>

<sup>2</sup> <http://www.gallup.com/poll/157256/gop-convention-romney-speech-evoked-lukewarm-reactions.aspx>

よれば、ロムニー候補の指名受諾演説に肯定的な評価を下した有権者の割合は 38%にとどまり、1996年の調査開始以来で最低を記録した。これまでの最低の前回08年のマケイン候補の47%よりはるかに低かったのである。逆にロムニー候補の演説に否定的な評価を下した人の割合も16%で過去最高であった。ちなみに過去最高は08年のオバマ候補の58%であった。

[CNN/ORCが発表した世論調査](#)<sup>3</sup>は、党大会全体に対する評価がさらに低かったことを示している。党大会全体を見て、ロムニー候補に投票する気になった有権者の割合は36%、投票する気が失せた有権者は46%である。投票する気になった割合と気が失せた割合はそれぞれ1984年の調査開始以来の最低と最高である。しかも無党派層に限っても、投票する気になった割合は36%にとどまり、同層を党大会のターゲットとしていたロムニー陣営と共和党を落胆させる結果が出た。

有権者のロムニー候補の指名受諾演説と共和党の党大会全体への評価が低いことは、大会後の世論調査におけるロムニー候補の支持率にも現れている。例えば[ギャラップ社](#)<sup>4</sup>の継続世論調査（7日間平均）によれば、ロムニー候補の支持率は大会前日の8月27日47%から翌28日46%に下がり9月3日までそのまま、27日はオバマ大統領を1%リードしていたが、28日以降は逆にオバマ大統領に1%ポイントのリードを許している。同社によれば党大会後に支持率が上がらなかった候補者は、共和党ではロムニー候補が初めて、民主党でも04年のケリー候補と72年のマクガバン候補だけであり、ともに一般投票で敗退した。

他の調査機関では[イプソス社](#)<sup>5</sup>（5日間平均）も27日のオバマ大統領の4%ポイントのリードが2日に同率になった程度。[ラスムセン社](#)<sup>6</sup>（3日間平均）は27日のオバマ大統領の3%ポイントのリードが1日にロムニー候補の4%ポイントのリードに逆転したが、4日には2%ポイントに縮小した。評価はあったが風化してしまったのであり、総じてみれば有権者のロムニー候補の演説や党大会に対する評価は低かったと考えることが妥当である。こうした評価が市場参加者の判断に織り込まれると考えられる電子投票市場「[イントレード](#)<sup>7</sup>」でも、ロムニー候補の当選確率が28日の43%から4日の41.9%へ低下している。またニールセン社の[発表](#)<sup>8</sup>によれば、ロムニー候補の演説をテレビ中継を見た全米の視聴者数は3,025万人であり、08年のマケイン候補よりも22%も少なかったという。

### (3) 微温的な評価のメディアと論客、本選挙では相当の挽回が必要に

メディアや論客のロムニー候補の指名受諾演説や党大会全般に対する評価も、微温的 (lukewarm, tepid)、失敗とは言い切れないが成功には程遠いとの評価が大勢であった。党大会の現場にいた議員などからは素晴らしかったと賞賛する声も上がったが、保守派の著名な論客の評価は総じて慎重であり、「まあよしという程度」「よかったがホームランはなかった」などと物足りなさを表す見方が多かった。我々もロムニー候補の演説をテレビで視聴したが、演説が終わった直後に、これでは無党派層の好感度の改善は無理ではないかと思った。

著名な選挙専門家のチャーリー・クック氏は、ロムニー候補の演説の直前に、演説はロムニー候補が有権者と個人的な関係を確立する最後のチャンスであり、[オバマ大統領との討論会よりも重要である](#)と述べ、関係を築けなければ本選挙に勝てないと示唆していた。クック氏自身はロムニー候補

<sup>3</sup> Interviews with 1,005 adult Americans by ORC International on August 31-September 3, 2012  
<http://i2.cdn.turner.com/cnn/2012/images/09/04/rel9a.pdf>

<sup>4</sup> GALLUP, U.S. Presidential Election Center, Track the 2012 presidential.

<http://www.gallup.com/poll/154559/US-Presidential-Election-Center.aspx?ref=interactive>

<sup>5</sup> Ipsos/Reuters Poll: Conventions Day 7. <http://www.ipsos-na.com/news-polls/pressrelease.aspx?id=5745>

<sup>6</sup> RASMUSSEN REPORT, Daily Presidential Tracking Poll

[http://www.rasmussenreports.com/public\\_content/politics/obama\\_administration/daily\\_presidential\\_tracking\\_poll](http://www.rasmussenreports.com/public_content/politics/obama_administration/daily_presidential_tracking_poll)

<sup>7</sup> Intrade, Mitt Romney to be elected President in 2012

<http://www.intrade.com/v4/markets/contract/?contractId=743475>

<sup>8</sup> Nielsen wire, Final Night of Republican National Convention Draws 30.3 million Viewers August 31, 2012  
<http://blog.nielsen.com/nielsenwire/politics/final-night-of-republican-national-convention-draws-30-million-viewers/>

の演説に対する評価を明らかにしていないが、我々はロムニー候補が党大会の段階での敗退こそ免れたが、本選挙での勝利には今後の相当の挽回が必要であり、実現できない可能性が高いと思う。

### 3. 十分に個人を語らず、具体策を示さなかったロムニー候補の限界

ロムニー候補の演説が無党派層の有権者に評価されなかった理由は二つ考えられる。一つは最大の課題であった個人を語る部分が不十分であったこと、もう一つは大統領になってからの具体的な政策を示さなかったことである。

#### (1) 肝心の自分自身を十分に語らず、批判への弁明の域を出ず

ロムニー候補の演説が、自らの信仰、ベイン・キャピタルの経営者時代の経験、自分の両親など、これまでの選挙戦では語ることがなかった領域に踏み込んだことは確かである。個人的なことを公開しながらないといわれるロムニー候補にしてみれば、思い切った判断であり果敢な挑戦であったとも思われる。しかし、発言はロムニー候補にとっては冒険であっても、ロムニー候補の支持者や保守派以外の無党派層の有権者の心に響くものではなかった。有権者が知りたいであろうロムニー候補自身の生き様、ベインキャピタルでどのような信念を持って経営に取り組んだのかをストレートに語らず、優れた両親の逸話やベイン・キャピタルで経営支援に成功した有名企業を紹介することで自分を分かってほしいという回りくどさの方が目立ってしまった。信仰については踏み込んだ発言もあったが、それ以外の個人的な話はロムニー候補をよく知らない有権者には十分に響かなかった可能性が高い。これでは無党派層の有権者の感情に訴えかけて、自らのロムニー候補に対する印象は誤っていた、同候補は個人として信頼できる人物であると思わせることは無理である。

#### (2) 目標と公約を実現するための具体的な政策を語らず

ロムニー氏の約 45 分にわたる演説は、上記の個人的なことよりは、オバマ大統領の実績と「米国の方向を誤らせたこと」に対する非難と「自分たちが米国の希望を取り戻す」「自分はよりよい未来を作ることを助ける大統領になる」という抽象的な宣言や「1,200 万人の雇用創出」という公約のアピールに割かれた。挑戦者である以上、演説の多くの部分を現職のオバマ大統領に対する攻撃に割り当て、有権者が魅力を感じる選挙公約や目標を掲げることは合理的な判断である。問題は、ロムニー候補が目標を実現するための政策や経路をほとんど説明しなかったことにあった。

「4 年間で 1,200 万人の新規雇用の創出」いう公約に関しては、ロムニー候補はその実現策として下記の五つの計画を示したという反論もあろう。しかし、これらの計画は、2013 年から 4 年間という限定された期間での 1,200 万人、月平均 25 万人という規模の雇用創出の対策としてみれば、著しく説得力を欠く。個々の計画が無意味というわけではない。計画の大部分は構造的失業への対策や中長期的に米国の生産性や潜在成長率を引き上げるといふ観点から意味のある政策を含んでいる。

- i) 石油、天然ガス、原子力などの活用による、2020 年までの北米でのエネルギー自給の実現。
- ii) 雇用増大に向けた技能訓練の提供、全ての親への子どもの学校選択の機会提供。
- iii) 新たな自由貿易協定の締結による貿易関連の雇用創出、不公正貿易を行う国に是正を求める。
- iv) 財政赤字を削減して財政均衡を実現し、起業家の米国での投資が無駄にならないようにする。
- v) 中小企業支援への法人減税と規制簡素化、オバマ政権による医療保険改革の撤廃。

しかし、これらの計画を短期的な雇用対策に設定するロムニー候補の強引さが、全てを台無しにしているのである。それを容認するか、あるいは勧めた経済政策ブレーンのセンスも考えると、この五つの計画が本当にロムニー政権において実現可能性があるのかも最初から疑ったほうがよい。代表的な保守系メディアのウォール・ストリート・ジャーナル紙 (WSJ) さえ、演説の翌日の社説<sup>9</sup>

<sup>9</sup> REVIEW & OUTLOOK, September 4, 2012, Mitt's Speech Gamble  
<http://online.wsj.com/article/SB10000872396390444914904577623702131613774.html>

の中でこの五つの計画をほとんど後知恵 (afterthought) と切り捨てていた。

ロムニー候補は、党大会の前までに全所得階層に対する限界税率 20%の減税案を示し、財源は減税による経済成長と複雑な税控除の見直しに求めるので税収は減らないと主張してきた。同案は専門家から、中間層以下の税負担の増加なしには成り立たない、税控除の具体策を示すべきと批判されてきた。しかし演説では減税について「中間層の増税はしない」「中小企業の法人減税」など限定的な言及があったのみで、税控除のどこを見直すのか等の具体的な政策への言及もなかった。また、上記のようにオバマ政権の医療保険改革を撤廃すると言いながら、演説では公的医療保険制度改革の具体的な対案も示し差なかった。それどころか、ロムニー候補は前号で取り上げた「オバマ政権がメディケア（高齢者・障害者向け公的医療保険制度）から 7,000 億ドル強を奪った」という事実とは異なることが判明しているオバマ大統領への非難を繰り返した。演説では具体策はなく、高齢者が退職後の生活を心配しなくてよい社会にすると語っただけである。

ロムニー候補を既に支持している有権者は、ロムニー候補が目標や公約を示すだけでも歓迎する。具体策を示さなかったのは、ロムニー陣営の戦術が政治的な計算であるという報道もある。具体策を示したところでオバマ陣営に討論会や選挙戦での攻撃材料を与えるだけであるし、税控除の見直しの具体策を示せば、共和党内や保守派の中が大騒ぎになることは避けられない。そのようなリスクを取る必要などなく、具体策は一部は討論会での切り札として使い、残りの大半は大統領選に勝ってから考えればよいというのである。しかしロムニー候補を知らない、まだ信頼していない有権者のうちで、目標や公約を掲げるだけのロムニー候補を信用する割合は限られる。その証左が前述の世論調査の演説に対する低い評価なのである。

#### 4. 好感度の高さに守られるオバマ大統領、攻め手を欠くロムニー候補

##### (1) 「オバマ大統領は好きだが実績に失望した有権者」を狙うロムニー陣営

有権者からの評価は低かったロムニー候補の指名受諾演説だが、演説の中でロムニー候補が示した今後の選挙戦においてターゲットにする有権者の設定は適切だったと思われる。そのターゲットとは、前回の大統領選ではオバマ大統領に投票したが、今はオバマ大統領の実績に失望し、今回の大統領選では誰に投票するかを決めていない有権者のグループである。ロムニー候補は党大会での演説において、今回の大統領選をあくまでオバマ大統領の信任投票と位置付け続け、このグループにオバマ大統領を見限って自分に投票するように働きかける姿勢を明確にした。

ロムニー陣営には、今後の選挙戦をこの構図で展開していけば、これから詰めるべき好感度の差も小さくて済むという次のような計算もあったらしい。不器用の面のあるロムニー候補が、人間味のアピールや話術に長けたオバマ大統領を好感度で上回ることは無理である。しかしロムニー候補にとっては幸いなことに、今回の大統領選はオバマ大統領の信任投票であって、オバマ大統領とロムニー候補の好感度を巡る競争ではない。逆にいえばこの選挙を二人の競争にしては勝てない。オバマ大統領の信任投票であれば、ロムニー候補は無党派層の有権者が大統領として許容できる (acceptable) と思う程度の好感度を得るだけでよい。今後はロムニー候補の演説のとおり、上記のグループがオバマ大統領にどれだけ失望させられたかを自覚させて、不信任に導けばよい。

実際、好感度の問いがある [イプソス社の継続世論調査](#)<sup>10</sup>をみると、ロムニー候補のオバマ大統領との好感度の比較は 8月27日の 26%対 54%から 9月2日の 32%対 48%へと差がやや詰まった。この改善幅はロムニー陣営が党大会に期待した効果には程遠く、前述の落胆させられる世論調査の結果も出ているが、陣営はまだ自らの戦略は通用する、戦えると思っているだろう。

<sup>10</sup> Reuters / Ipsos Polling, Daily Convention Tracking  
<http://www.ipsos-na.com/download/pr.aspx?id=11918>

## (2) オバマ大統領が好きな有権者は大恐慌の阻止などの実績を評価

しかし、このロムニー陣営の見通しは楽観的過ぎる。このグループをロムニー候補に投票させることの難しさを理解していない可能性もある。ロムニー陣営がターゲットとするグループは、オバマ大統領は個人的に好きだが、誰に投票するか決めていないか、オバマ大統領に投票するつもりだが考えを変える可能性があるかと答えている有権者であろう。ロムニー陣営は、このグループが今後もオバマ大統領を好きであり続けても、景気と雇用の停滞という現実をアピールし、「4年前よりもあなたの生活はよくなっていますか (Are you better off than you were four years ago?)」と問い続ければ、オバマ大統領を敗退させてもやむを得ないと決断してくれると期待している。

しかし、オバマ大統領が好きな有権者は足元の景気や雇用の状態だけでオバマ大統領を見限るほど単純な考えの持ち主ではない。それは、春以降の景気と雇用の回復のペースが急減速して8%台の失業率が続くなど、過去の大統領選であれば再選が困難な経済情勢であるのに、オバマ大統領が常にロムニー候補よりも高い支持率を維持しているという実績が示している。

しかもオバマ大統領が好きな有権者は、ロムニー陣営や共和党とはオバマ大統領の経済運営に対する評価が異なる。オバマ大統領には、FRBと連携してブッシュ政権のときに発生した金融危機を引き継ぎ、政権発足から僅か半年で危機の拡大に歯止めを掛けた実績があると考えているのである。オバマ政権の発足直後の09年前半は雇用が月平均65万人ものペースで激減し、ダウ平均は09年3月上旬に6,500ドル台まで落ち込んでいた。米国の経済・社会も大恐慌以来の百年に一度の金融危機が進行しているとの恐怖感で満ちてきた。それだけに大恐慌の再発を阻止したオバマ政権の功績は大きい。多くの有権者がそれを認めていることは、最近の世論調査でも経済停滞の最も大きな責任はブッシュ前大統領にあるとの回答がいまだにトップになることに表れている。オバマ大統領の問題は危機を止めた後の景気と雇用の回復が遅いことであり、複数のメディアが示したオバマ大統領のこの4年間の経済運営の成績表も、金融危機の拡大阻止まではA、その後はDに近いCという二つに分けた評価になっている。

## (3) 「4年前に比べて生活はよくなっていますか」という問いは効かない可能性がある

奇妙なことだが、現在の共和党は頑なに金融危機を無視している。今回の党大会をみても、ブッシュ前政権のときに金融危機を発生させたことへの反省の声もなければ、その危機をオバマ政権とFRBが止めたことへの評価もない。本日9月4日から始まった民主党の全国党大会において金融危機という言葉が頻繁に出ているのとは対称的である。主流の経済分析では、現在の高失業は金融危機の後遺症が大きく、ブッシュ前政権と共和党の責任も大きいという評価になるが、共和党は一切認めない。そして同党の視点は危機を避けるかのように危機後だけに集中する。危機対策であり中立的な立場のCBO(議会予算局)が効果を認めた景気刺激策を無駄と言ひ、景気回復の遅さと危機対策の代償として膨らんだ財政赤字と政府債務を非難し、オバマ政権下で危機の再発防止のために成立した金融規制改革法を廃止して危機前の状態に戻せという。共和党が今後もこのような偏った視点を持ち続けるかぎり、オバマ大統領の金融危機を止めたという功績を認めている有権者を説得することは、これからの2カ月間に景気が急速に悪化でもしないかぎり難しいだろう。

「4年前に比べてあなたの生活はよくなっていますか」という問いかけを最初に使ったのは、1980年の大統領選で民主党のカーター大統領を破った共和党のレーガン候補だった。ロムニー陣営は、同じ問いかけが今回も通じると考え、ロムニー・ライアン両候補は党大会後の遊説やインタビューで多用している。しかし、4年前に起きた金融危機とその後遺症の深刻さを認識する有権者は、危機の前と今を単純に比較する問いかけに意味を見出さない可能性が高い。所得は4年前よりも上がっていないかもしれないが、金融危機の前と今を比較しても意味がないと考えるのである。それだけではなく、「生活はよくなったか」という単純すぎる問いかけをしにくるロムニー陣営に対して、この4年間の米国に何が起きたのか分かっているのかと疑問を持つ有権者も少なくないだろう。

#### (4) オバマ大統領が好きな有権者を説得できないロムニー陣営

オバマ大統領が好きな有権者には、景気と雇用の現状を認められないという理由だけで、米国を変革しうる歴史的な大統領を不名誉な敗退に追い込みたくないという心理があるという見方も多い。だが、このグループに「オバマ大統領をあきらめよう」と呼び掛けようとしているロムニー陣営は、オバマ大統領が歴史的な大統領であるとは思っていないし、このグループがそう思っているとの認識もない。このグループに対しては歴史的な大統領であっても交代させるしかないという入念な説得が必要なことを理解せず、「生活はよくなっていますか」などという言い古された問いかけだけで片付くと思っているようでは、このグループの取り込みは難しい。今後2カ月間で景気と雇用が極端に悪化することでもないかぎり（その可能性は相当小さい）、このグループを説得できる準備も術もないロムニー陣営は支持拡大に苦戦する可能性の方が高いと思われる。

#### 5. 演説で政策を示さなかったロムニー陣営が高い代償を払わされる可能性

前述のWSJの社説は演説で政策を示さなかったロムニー候補と陣営の判断を強く批判している。民主党とオバマ陣営が、ロムニー陣営の無策を叩くだけでなく、ロムニー政権が採用すると予想される政策を決めつけて、それを一方的に攻撃する可能性が高いとみているし、ロムニー陣営はそれに有効な反撃をできない恐れがあると考えているからである。既にオバマ大統領とバイデン副大統領は、ロムニー政権になれば富裕層に有利な減税と税控除の見直しがなされて中間層の負担が増える、ロムニー候補はメディケアを守るといっているがバウチャー支給に切り替わるなどと批判を強めている。本日9月4日から始まった民主党全国党大会もそうした攻撃に拍車が掛かる場となりそうであるが、少なくとも党大会中はロムニー陣営の反撃の機会は少ない。今後も、10月の大統領候補・副大統領候補の討論会まで、オバマ陣営の攻勢を止められない恐れもある。

しかも一部の政策は、ロムニー候補が意図的に隠したのではなく、結論が出ていない可能性もある。中間層の負担が増えないような税控除見直しを含んだ減税案を用意できるのか。メディケアは、本当にライアン副大統領候補が下院予算案で示した民営化案を封印したのか。今後、オバマ陣営はそうした部分を容赦なく攻め、ロムニー候補の政策を決めつけて非難する可能性が高いが、政策を示していないロムニー陣営は対応が後手に回る恐れがある。そのような展開が続けば、やがてロムニー陣営のオバマ大統領の信任投票にするという基本戦略が崩れ、オバマ陣営が狙うオバマ大統領とロムニー候補のどちらが次の大統領に相応しいかを選ぶ選挙になる可能性がある。そうなれば、一対一の対決への準備が不足しているロムニー候補には不利な展開が待っている。

#### 6. 主要メディアのターゲットになり始めたライアン副大統領候補

最近になって、ライアン副大統領候補の選挙戦における存在が微妙になってきたことも指摘しておきたい。保守派の期待が大きいライアン氏は、党大会においてオバマ大統領に対する非常に攻撃的な演説を行い、共和党内は盛り上がった。しかし、有権者の党大会に対する低い評価は、ライアン副大統領候補の選挙戦における影響力の限界をも示すことになった。

さらに、ライアン氏が副大統領候補の指名受諾演説という重要な場面で聴衆をミスリードする発言を多発したことも問題になりつつある。ライアン氏は、オバマ大統領が超党派の財政赤字削減委員会の勧告を守らず財政赤字を膨らませた、米国債の格付けが引き下げられたのはオバマ大統領のせいなどと演説で批判した。しかし、ライアン氏は同委員会のメンバーとして審議に参加しながら、委員会の最終案に反対して不採択に追い込んだ張本人であった。米国債の格下げも、昨年夏の債務上限引き上げ交渉にライアン氏が強硬に反対したために、米政府債務のデフォルト（債務不履行）発生寸前になるという混乱が生じたことが原因の一つだった。ライアン氏は二つの問題への自らの関与を語らずにオバマ大統領を批判したため、多くのメディアや論客から誠実さを欠くと批判された。それ以外にも、オバマ大統領の就任前に閉鎖された地元のGM工場をオバマ大統領が公約どお

りに支援しなかったかのように語り、ロムニー候補と同じくオバマ政権が医療保険改革のためにメディアから約 7,000 億ドルを奪おうとしたというメディアから既に誤りを指摘された批判を演説で繰り返した。

上記のライアン氏の発言を受けて、保守系以外のメディアはライアン氏の追及に動いたが、それに対してライアン氏が挑発的な発言で応じたことが、メディアをさらに刺激し、当面の選挙戦のターゲットにする可能性が高まっている。ロムニー陣営はライアン氏に引き続きオバマ大統領に対して先陣を切って激しく攻撃する役割を期待するとは思われるが、これ以上ミスリードする発言や事実と反する発言があれば、ライアン氏はメディアから集中砲火を浴びるだけでなく、大統領職の適性を問う声が生じる恐れもある。ライアン氏にとってオバマ陣営との論戦はこれからであり、10月にはバイデン副大統領との討論会も控えている。今後、ライアン氏が新たな問題発言をする機会は十分にあるだけに要注意である。

ライアン氏の副大統領候補への起用が発表された頃には、ロムニー候補が選挙戦の局面転換を図って、財政再建を巡る論戦をオバマ大統領に仕掛けるとの見方もあったが、我々は否定的にみていた。今回の党大会を通じて、ロムニー・ライアン両候補が財政再建には短く触れただけであったことをみると、やはりロムニー候補にそのような冒険、開き直りをする気はなく、オバマ大統領の信任投票として不信任に追い込むという従来の戦略は変わっていないことが確認できたともいえる。

## 7. オバマ大統領が優勢だが、民主党全国党大会と指名受諾演説に注目する必要がある

ロムニー陣営と共和党の党大会で好感度をアップし、支持率も押し上げようという狙いは不発に終わり、本日から全国党大会の始まったオバマ陣営と民主党は有利になったように見える。前述のロムニー候補が自らターゲットとしたオバマ大統領は好きだが実績には失望している有権者を取り込むことが難しい状況にあること、党大会での政策を示さないという事実上の失策もあり、現時点ではオバマ大統領が拮抗する支持率よりも実態では大きくロムニー候補をリードしている可能性が高いと我々はみる。

しかし、党大会がオバマ陣営にとって思わぬ躓きとなるリスクもある。有権者の共和党の党大会への低い評価は、これまでの低調な大統領選や機能不全が続く議会への失望が反映されている可能性もある。それらはオバマ陣営と民主党にも共通して影響する問題であり、民主党の党大会も低い評価に終わる可能性はある。加えて、共和党が攻撃しているように現職のオバマ大統領は景気と雇用の停滞の責任を問われる立場であるし、現職のオバマ大統領が再選を目指すという党大会は新鮮味を欠くなど、挑戦者である共和党にない不利な面もある。世論調査によれば、民主党支持者の大統領選・議会選への熱意が共和党より低いというオバマ陣営にとっての懸念材料もある。党大会初日は、37歳と若い中南米系のカストロ・サンアントニオ市長（テキサス州）の基調演説とミシェル・オバマ大統領夫人の演説がそれぞれ賞賛を浴びるなど順調な幕開けとなった模様だが、残り二日間のリスクが消えたわけではない。

オバマ大統領には、これまでの選挙戦において、二期目の目標、ビジョン、具体的な政策をあまり示しておらず、有権者にはオバマ大統領が再選された後に何をしたいのか分からないという問題もある。オバマ大統領は党大会最終日の6日夜に指名受諾演説を行うが、そこで二期目に何をするつもりなのかを明確にしなければ、それこそオバマ大統領が好きな有権者の失望と離反を招く恐れがあるし、ロムニー候補以上に有権者から低い評価を受ける可能性もある。

民主党の党大会が有権者に評価されてオバマ大統領がロムニー候補に対するリードを広げるような展開になるのか、民主党も有権者から低い評価を受けてオバマ大統領の支持率が上がらず、現在同様の大接戦が続くのか。どちらになるかは現時点では不透明であり、本日から党大会の展開と最終日のオバマ大統領の演説を見届けるしかない。

さらに、オバマ大統領の演説の翌朝には8月の雇用統計の発表が待っている。今のところ、雇用者数は10万人台前半の増加、失業率は8.3%で横ばいといった物足りないが、選挙戦の基調までは変えない結果となる可能性が高そうではある。だが、可能性は非常に小さいが、こうした予想を裏切る深刻な結果が出るのであれば、前夜にオバマ大統領がどれだけ有権者の多くを感動させる演説を行ったとしても、有権者の多くは演説を忘れ、ロムニー陣営が望むオバマ大統領に有権者が不信任という断を下す方向に弾みがつくことになる。

今回の選挙戦は、景気と雇用は従来であればオバマ大統領の再選を許さない悪さである一方、前述のオバマ大統領が個人的に好きであるという有権者の多さ、ロムニー候補の弱さという要因が重なった上でオバマ大統領がわずかに優勢な情勢が形成されている。結果としてこれまではオバマ大統領のわずかなリードが続き、今後も同じ情勢が続いていく可能性が相対的に高いと思われるが、圧倒的な可能性ではない。複数の要因がぶつかり合っている以上、一つの変化が選挙情勢を大きく変える可能性を持っていることに常に注意しながら、今後の選挙戦をみていく必要がある。

以上／上原・今村

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料の提供する情報の利用に関しては、すべて利用者の責任においてご判断ください。当資料に掲載されている情報は、現時点の丸紅米国会社ワシントン事務所長の見解に基づき作成されたものです。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当事務所は情報の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。